

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (中国)		一般レストラン（外食事業担当）	来客数の動き	・7～8月は来客数が前年比で92～93%で推移していたが、今月に入って105%に伸びてきている。前年もランチタイムは100%を超え、9月に入って更に110%までに伸びる傾向にあったが、今年は近隣に飲食店が増えたことやランチの競争が激化していることが、地域の集客要素を高めており、客にとっての選択肢を増やしている。同様に、これまで100%を切っていたディナーも来客数が増える傾向にあり、特に予約が118%と大きく伸びてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・夏の酷暑も終わり、また、地元プロ野球チームの活躍により外出の機会が増え、少しずつ購買意欲が出てきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前は来客数が前年の98%で推移していたが、現在はやや回復し100%になりつつある。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・今月の来客数は前年比109%であり、ここ数か月は好調に推移しており、それに伴ってまとめ買いをしたり高単価の商材を求める客も増えている。また、例年に比べて早く気温が下がったことで、衣料品の動向が良いのも好調の一因になっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は低下傾向にあるが、来客数は伸びている。
		家電量販店（販売担当）	単価の動き	・前月に比べて30%程度単価が向上している。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨災害での一時的な需要がある。
		その他専門店【土産物】（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨以降、客の様子に元気がなく買物に来ても必要なものだけを買う雰囲気であったが、9月頃から秋の果物などがよく売れるようになり売場に活気が戻っている。買物だけでなく屋外でゆっくり過ごす様子も見られ、テイクアウトの飲食物もよく出るようになっている。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・観光シーズンの到来で来客数が増加している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害や台風などの天候の影響による足元の景気の急落で、観光業界が大きく影響を受けたが、徐々に復興の気配が訪れ、市場の活気も戻りつつある。ただ、インバウンド客の減少もあり、完全な回復基調ではないが、抑制された消費マインドの復活に期待が持てる。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・今月末までが期限の新規加入キャンペーンを実施しており、加入件数が増加している。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子がやや良くなっている。
		通信会社（総務担当）	それ以外	・通信業界での変動は少ないが、山口ゆめ花博の効果で県外からの観光客増加により、短期的に小売業での景気上昇が見込まれる。
		テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・過ごしやすい気候となり秋の花も充実してきたため、客の動きは良くなっている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・来年の消費税の引上げが現実味を帯びてきており、上がる前にリフォーム工事等の時期を早める決断をする客が見受けられる。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・見学会などのイベントへの参加も多く、客の動きが積極的で活発になってきている。
		住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・年末引渡物件の受注が多く、受注件数も伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来客数が減っているため、店舗への来客数も減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・店頭では相変わらず低価格志向があり、多くの客が本当に必要なものしか買わない傾向がみられる。
		一般小売店【茶】（経営者）	来客数の動き	・今年当地は不昧公200年祭が行われている。そのため当店はお茶屋なので景気が良くなってきているが、最近災害があつて見込まれた客が来れないため、それによって景気が少し低下し、今のところ前年より少々良いが、このあとこれがそのまま続くか、とても不安である。
	一般小売店【食品】（経営者）	来客数の動き	・来客数の変動や客単価の動きが基本的に変わっていない。	

一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	お客様の様子	・ 駅近くに大きなショッピングモールができたので、客がそちらに向いている。
百貨店（経理担当）	販売量の動き	・ 化粧品や靴、バッグなどの婦人服飾は好調を維持しているが、それ以外は前年を下回る部門が多い。好調なときもあるが維持することが難しく安定しない。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ 3か月前の6月と比べると変わらないが、平成30年7月豪雨災害時とは全く動きが異なり、販売が改善している。販売商材にも前年同様の動きが見られ、コート等先取りしたのも動き始めている。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・ 9月中旬まではバッグ、財布など季節感に左右されにくいアイテムの動きが良かったが、地元プロ野球チームの優勝セールが遅れる可能性があるため、買い控えが長く続いており、特にシーズン雑貨の動きが止まっている。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・ 気温が不安定なことと天災が起こっていることから、衣料品に関しては、客はぜいたくをしない傾向がある。婦人服、子供服、紳士服の全てが前年と比べてマイナスの状況となっている。また、アパレル関係もそれらを踏まえて製造を抑えている傾向があり、商品がなかなか手元に届かない。さらに、関西国際空港が閉鎖されて輸入物の入荷が悪化していることもあり、なかなか客に供給できる状況ではない。しかし食品は、物産展により大幅にプラスとなっており、食に関する客の財布のひもは緩んでいる状態であることは今までと変わらない。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・ 近隣で大型の博覧会が始まり、週末を中心に客を取られることを予測していたものの、極端な落ち込みはなく、健闘している状況にある。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・ 300万円を超える時計、絵画、仏像が売れているが、まだ安心はできない。
百貨店（人事担当）	販売量の動き	・ 集客催事などで来客数は前年より増加しているが、販売数が比例していない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ 野菜の相場高による影響が販売点数の減少につながっている。3か月前との比較では、平成30年7月豪雨災害での特需による数値を上回ることにはできず、景気は低下しているとの判断をせざるを得ない。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・ 気候の影響もあり、仕入れ、集客共に難しい。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・ 野菜など生鮮商品が天候等で前年に比べ単価高となっているものの販売点数が前年をクリアしている。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・ 野菜の相場高等により1品単価が上昇し、客単価も上昇しているものの、雨の日が多いこともあり、来客数の前年割れが続き、既存店の売上が前年割れとなっている。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・ 生鮮品の高騰もあり客単価は上昇しているが、依然として来客数は減少しており、客単価上昇が売上増につながっていない。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・ 平成30年7月豪雨災害、9月の北海道胆振東部地震等で空港が閉鎖されていたために、海外からの旅行者が隣の港への航路で多く訪れており、来客数が増えている。
コンビニ（支店長）	販売量の動き	・ 状況が好調に推移している。
コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・ 近年のドラッグストアにおける取扱品目の多様化や大型商業施設の開業などにより、来客数の減少に拍車がかかっている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ 客から政治経済に希望を持っていないとの意見をよく聞く。
衣料品専門店（店長）	単価の動き	・ 3か月前に比べると冬物の購入目的で来店する客が見られ、単価の高い客が非常に多くなっている。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・ 前月に比べて単価が高くなっている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・ 9月の販売量は前年比95%と依然厳しい状況である。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・ 平成30年7月豪雨による土砂災害の復興も進み、来客数も3か月前の良いときと同じ水準まで回復してきている。特に今月は3連休が2回あり、来客数は新車、サービス共に前年の98%で推移している。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・ 前年より販売量はやや増えているものの単価が低下している。

その他専門店 〔和菓子〕（経 営者）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響が長引いている。
その他小売 〔ショッピング センター〕（所 長）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害により来客数に約20%の影響があったが、9月と6月を比較して来客数が回復してきているかどうかは判断できない。
その他小売 〔ショッピング センター〕（管 理担当）	お客様の様子	・景気が大きく変動した状況にはないが、夏の猛暑などの天候不順も合わさり、衣料関係の動きが特に悪くなっている。アミューズメント関係では、土日になると以前と同様に多くの客が来ているが、高額消費などは余りないようである。
一般レストラン （店長）	来客数の動き	・前年と比べて同程度の来客数である。地元プロ野球チームのリーグ優勝が長引いてセールなどが始まっていないため、それを加味すれば前年よりも微増であるが、良くも悪くもその影響が大きい。
都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響がまだあるため来客数が伸びていない。ただ、地元プロ野球チームも優勝し、インフラも回復してきているため、景気は上向き始めている。
旅行代理店（経 営者）	販売量の動き	・災害がないと思っていた当県が今回の平成30年7月豪雨災害を受け、旅行に対して大きな影響を受けている。
旅行代理店（営 業担当）	販売量の動き	・各地で発生した災害への各種支援策で回復基調にはあるものの、前年と比べてみても厳しい状況にある。
タクシー運転手	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響で来客数が非常に少ないため、夜も乗車する客が少ない。交通の便が悪いために客は早く帰る雰囲気があり、旅行客も少ない。
タクシー運転手	単価の動き	・運転手の人数が減って前年度比98.3%であり、横ばいである。
タクシー運転手	お客様の様子	・9月前半は暑さの影響で夜にピヤガーデンやイベントなどに出かける人が多くなっていたが、後半に天候が悪化し外出を手控える状況がある。また、平成30年7月豪雨災害もあったため、観光客が旅行を控えている状況が見受けられる。
通信会社（企画 担当）	お客様の様子	・客のイベント参加度数とその際のサービス関心度は若干低調である。
テーマパーク （管理担当）	来客数の動き	・入館者数や商品販売高が前年同月比微増で推移している。
ゴルフ場（営業 担当）	お客様の様子	・9月に入って暑さも和らぎ集客シーズンに入ってきている。7～8月よりは客の動きは出てきているが、前年と比べると来客数が大きく減少している。
美容室（経営 者）	来客数の動き	・夏が終わり暑さも和らいできているため、客の来店間隔が空いてきている。
設計事務所（経 営者）	お客様の様子	・客の住宅取得意識は高いが資金面等のハードルが高いため、踏み出す力が弱い。
設計事務所（経 営者）	来客数の動き	・個人住宅の新築やリフォームの引き合いに低調な状況が続いている。自然災害が続いた影響も少なくないが、その前からの状況なので、はっきりとした理由がつかめない。
商店街（理事）	来客数の動き	・直接自分には影響のないことであっても、豪雨や台風などで自粛ムードがある。また、猛暑で外に出かけない高齢者も多くあり、そのために購買意欲が低下している。
商店街（代表 者）	単価の動き	・ベビー服と子供服を専門に売っているが、昨今の売上状況は地元プロ野球チームのリーグ優勝セール待ちの客が多く、良いものを安くタイムリーに買いたい気持ちがありありと見受けられる。イベントを行わないと客は食いつかない状況が顕著に表れており、非常に苦慮している。
一般小売店〔印 章〕（経営者）	お客様の様子	・今月は9月末の半期決算に当たるが、新しい会社の設立や異動などに関連した注文が少なく非常に厳しい。
一般小売店〔眼 鏡〕（経営者）	来客数の動き	・天候不順や平成30年7月豪雨災害の影響で来客数が減少している。
百貨店（外商担 当）	来客数の動き	・気温の低下に伴い秋物商材も動き始め前年ペースで推移していたが、月末土日の台風接近の影響で、来客数と売上が共に前年を下回る見込みである。
百貨店（営業企 画担当）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震、台風の連続通過、酷暑の後の降雨続きほか、天災によって周辺のイベントが中止されている。

	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が減少傾向にあり購入金額の減少もみられる。
	衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・同業者の廃業する数が増えている。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・購入単価の下落傾向があり、客の財布のひもが一層固くなりそうである。
	家電量販店（店長）	単価の動き	・高単価商品の動きが悪く、機能より価格重視の客が増えている。
	家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・地元プロ野球チームのリーグ優勝セールを目的とした客の買い控えが長期にわたり、今月の業績を苦しめている。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車、中古車共に前年台数を超えない販売状況で推移しており、ユーザーの使用年数が長期化している。
	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・理由は明らかではないが、何となく周囲の状況に明るさがなく、客の購買意欲もない。また、市場にも活気がなく売上も前年を下回っている。
	住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・今月は大きなイベントを行ったので、客の購入単価が上がっている。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・秋になっても毎日暑くまた雨の日も多く、来客数も少ない。来た客も買物をする様子に元気がない。
	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・平成30年7月豪雨災害の影響で客が使う金が減ってきている。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・最近では異常気象の影響もあり、来客数が減少している。地方では給与所得の上昇を実感できるほどにはなっていない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響がまだ続いており、夜の飲食業界は景気が非常に悪くなっている。
	都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害以降、台風や地震などの自然災害が続き、旅行マインドが低下している。山陰ステーションキャンペーンや不昧公200年祭などのプラス要因があるものの、稼働率が前年割れしており単価上昇で対応している。
	都市型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響が底は打ったとはいえず、完全には回復し切れていない。
	通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客は商品の質で購入を決めるわけではなく、単に価格が低いかどうかで決める傾向にある。
	通信会社（販売企画担当）	来客数の動き	・新商品が出ても以前のような来客数の増加につながっていない。
	テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・週末の天候不良や台風の接近で臨時休園などが続き、来園者が減少している。
	観光名所（館長）	来客数の動き	・9月は前年並みに戻しつつあるものの、7月以降の大雨、台風、酷暑により入館者が減っている。
	美容室（経営者）	それ以外	・夏前からの台風や天候不順のため、週末に集客が全くできずイベントも中止となり、売上が90%まで落ちていたが、それが全く回復せず難しい状況にある。
	× 一般小売店〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響で消費ムードが沈滞し回復していない。
	× コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ここ最近、朝昼夜の工事関係客の来店頻度が少なくなっている。昼間は時々近所の企業から客が来店するが、それよりも工事関係客によっての方が景気の良さ判断できる。そうした客が来ないことは、来客数にもつながらないため非常に厳しい状況である。
	× 乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・3か月前には平成30年7月豪雨災害などもあり新車販売が増えたが、今は減っており、メンテナンスの来客数も少ない。
	× その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・前半は残暑が続いて客足が鈍く、学校の運動会があり休日でも来客数が少ない状況である。
	× タクシー運転手	来客数の動き	・夜の繁華街への客が減少している。
企業動向関連	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品の製造を行っているが、10～11月にかけて自動車メーカーが新車を立ち上げるため、それに向けて受注が入っており忙しい状況にある。
(中国)	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要商品である苛性ソーダの値上げも浸透し、単価引上げ要因による増収部分に加え、主要取引先も増産しており、これに比例して受注量も増加傾向にある。
	通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・平成30年7月豪雨災害を契機とした取引先での事業継続計画に関する情報システムの提案依頼が増加している。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、契約件数が1.5%程度伸びている。

	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規事業が徐々に定着し、本業に附帯する関連業務も堅調に推移している。
	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・水揚げ量が少なくなっても価格がなかなか上がらない。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず低価格路線が続いているが、朝夕の気候変化とともに秋冬商材の需要が少し良くなってきている。
	食料品製造業（総務担当）	それ以外	・集荷状況に関わるトラックの台数がさほど変わっていない。
	繊維工業（監査担当）	受注量や販売量の動き	・現在は閑散期であり、荷動きはほとんどなく、例年どおりの状況である。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・一般的に景気は悪くないが、上向きに良くないままには至っていない。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量に変化はなく、生産水準は高いまま推移している。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と同水準で推移しており、大きな変化はない。
	一般機械器具製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・台風や地震などによる災害復旧の需要がある。
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響に対応しての調整による受注量の減少が一段落し、通常受注量と生産量となっている。
	輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・業界各社とも相応の仕事量は持っているが、収益性は低位で安定しており、やや悪い状態は解消されていない。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・技術職の稼働は目一杯の状況が続いている。予定外の平成30年7月豪雨災害からの復興関連物件もあり、好況が継続している。
	建設業（総務担当）	取引先の様子	・受注環境が好転している。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・平成30年7月豪雨災害の影響により鉄道等の輸送力に問題が出たが、一方で特需もあるため、総じて大きな変化は見られない。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・IT導入補助金の活用など、需要の活性化は見られず、例年例月と同様に通信関連商材が推移している。
	金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・系列完成車メーカーの多目的スポーツ車の販売好調により、地元部品メーカーの受注は高水準を維持している。車格の向上から部品単価の上昇もあり、月次損益は増収増益となる関係先が多い。
	金融業（貸付担当）	受注量や販売量の動き	・スーパー等の販売額は前年割れが続くも、乗用車新車販売台数やドラッグストアの販売額は前年比プラスとなっている。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業種別での受注で販売促進での受注が多かった業種と受注量が減少する業種で推移しており極端に変動はない状況である。
	木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・台風や地震の影響もあり、物流や物資の動きが停滞し、住宅業界は低迷気味である。新設住宅着工数も伸び悩んでいる。
	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・活動水準は人手不足などの制約もあり全体としては横ばい状況のなかで、平成30年7月豪雨災害の影響を受けた一部ユーザーから取引先への注文が3割程度減っているとの情報もあり、当地区での活動は若干下振れしている。
	非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・電子素材関係で受注量が低下傾向にある。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・eコマース関連の荷物は相変わらず好調に発送されているが、会社関係、量販店関係は落ち込みがあり、個人からの発送も前年割れの状況が続いている。ただ、地元プロ野球チームがリーグ優勝した後の優勝セールによる荷物の動きは活発になっている。
	輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・業務は本来の状態に戻りつつあるものの、平成30年7月豪雨災害の影響が続いており、全体の荷動きを含めて悪くなっている。
	x 一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・商品供給を受けている相手企業の工場が水害により被災して生産が止まっていることから、商品供給が受けられず、業績に影響が出ている。
雇用関連	-	-	-
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・3か月前に比べて人材派遣、職業紹介共に依頼される求人数が増えている。

(中国)	求人情報誌製作会社(広告担当)	雇用形態の様子	・新卒採用がほぼ終了し、第2新卒を含む若年層の中途採用、30代までの即戦力の技術職採用が活発化している。そのため中途就職サイト、転職合同説明会、人材紹介、ハローワークなどを利用して採用活動を展開している。即戦力の技術職は人材紹介の比率が年々高くなっている様子が見える。
	職業安定所(職業指導担当)	求人数の動き	・求人状況では、有効求人倍率が1倍を超えて非常に高く推移している。
	人材派遣会社(支社長)	求人数の動き	・求人数には特に動きがなく、内容は期間限定なものが多く、目立った変化は見られない。
	新聞社[求人広告](担当者)	求職者数の動き	・有効求人倍率は高水準で推移しているものの、離職率も増加傾向にある。企業は人材確保に対し、かなりの労力を費やしており、人手不足のため本来の企業活動にも影響が出てきている。
	職業安定所(所長)	求人数の動き	・新規求人は、好調な医療用機器やプラスチック製品などの製造業から製造スタッフの大口求人があり、前年同月比で3割増となった一方、医療福祉が1割減となり、求人全体では横ばいとなっている。
	職業安定所(雇用関連担当)	求人数の動き	・新規求人数は前年度に比べ微減であるが、正社員求人は増加している。また、医療福祉、運輸、製造業の求人は増加しており、人手不足感が強い。
	職業安定所(事業所担当)	求人数の動き	・新規求人数は月により増減はあるものの増加傾向にあり、有効求人数も9か月連続して前年同月比を上回るなど、管内企業の募集活動は引き続き活発である。その反面、新規求職者数、有効求職者数とも減少が続いており、企業の人手不足感は強い。
	民間職業紹介機関(人材紹介担当)	求職者数の動き	・求人のニーズはあるが求職者の動きには全く変化がない。
	学校[短期大学](進路指導担当)	周辺企業の様子	・求人意欲の高い企業から新卒募集の求人があるが、学生の希望する業種や職種でないことが多く、マッチングが図れていない。
	求人情報誌製作会社(経営者)	求人数の動き	・9月は求人数に厳しさがあり、飲食業、派遣会社、パチンコ等アミューズメント関係では減少傾向にある。この傾向はしばらく続きそうであり、特にアミューズメント業界の求人数は厳しい。
民間職業紹介機関(職員)	採用者数の動き	・平成30年7月豪雨災害の影響がまだ癒えておらず、採用を取りやめた企業では再開のめどが立っていないところが散見される。	
x	-	-	-